

## オナガシジミ *Araragi enthea enthes* (Janson)

### 【選定理由】

本県では、1968年に豊田市（旧稲武町）で初めて確認されている（成瀬ほか、1968）。その後、豊根村（旧豊根村）でも発見され（浅野ほか、2001）、旧稲武町の井山川及び野入川流域（矢作川水系）、豊根村の坂宇場川流域（天竜川水系）の二つの限られた地域で発生している。食樹のオニグルミに依存して発生するため、道路拡張や堤防改修、また昨今の多量降雨などの影響を受けて河川環境が変化したこともあり、食樹の減少に伴い個体数は減少気味である。

### 【形態】

前翅長は18mm程度。色彩斑紋は♂♀ほとんど同じ。♂では触角の裏面が先端だけ黄色なのに対し、♀では全体的に黄色になる。裏面の斑紋が特異で他種との区別は容易である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

1968年に豊田市（旧稲武町）で初めて卵が確認された。成虫は、井山川や野入川（鈴木ほか、1987）で確認されているが、近年、旧豊根村天竜川水系の坂宇場川（竹内ほか、2000；浅野ほか、2001）でも発見された。

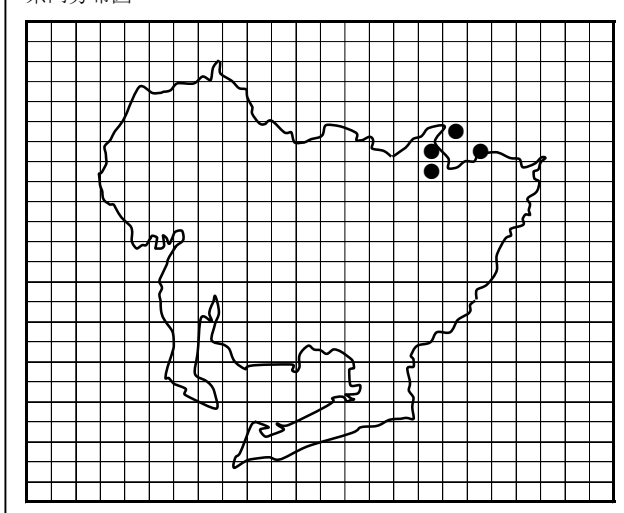
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に分布する。本州中部地方以北の地域では、山地のクルミ林に稀ではない。近畿地方から九州にかけては、産地は局所的になる。

#### 【世界の分布】

ロシア南東部、朝鮮半島、中国東北部および西部、台湾に分布する。1属1種といわれていたが、最近、同属の近似種が発見されている（小岩屋、2007）。

県内分布図



### 【生息地の環境／生態的特性】

本種は、山間地の溪流沿いに生育するオニグルミを食樹として発生している。年1回の発生。♂は7月中旬ころから発生し、♀は10月上旬まで見られることもある。日周活動は午後4時頃から開始され、♂には占有性が認められる。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

旧稲武町の井山川と野入川や豊根村の坂宇場川流域の限られた地域で発生している。比較的安定した発生を続けていたと考えられるが、道路拡張、堤防保全・改修や昨今の多量降雨の影響を受け、河川環境が変化したためオニグルミの減少とともに本種の個体数も減少している。

なお、山間地の発生地としては、本県の近隣では三重県の鈴鹿山脈北部の藤原岳や御池岳（浅野ほか、1985；吉友、2001；大曾根、2003）、岐阜県の旧串原村（西田、2003）などにも産地がある。

### 【保全上の留意点】

本種は、食樹のオニグルミに依存して発生しているので、まずオニグルミの生育地の保全が必要不可欠である。

### 【引用文献】

- 浅野 隆ほか、1985. 三重県でオナガシジミを確認. 佳香蝶, (141): 15.
- 浅野 隆ほか、2001. 愛知県豊根村でオナガシジミを確認. 佳香蝶, 53 (207): 38.
- 小岩屋 敏、2007. 32. オナガシジミ. 世界のゼフィルス大図鑑解説編: 92. むし社, 東京.
- 成瀬善一郎ほか、1968. 奥三河の冬期採集報告. 佳香蝶, 20 (75): 79.
- 西田真也、2003. 岐阜県のチョウ・2003: 20. 自刊.
- 大曾根 剛、2003. 鈴鹿御池岳のオナガシジミの記録. 佳香蝶, 55 (216): 70.
- 鈴木哲彦ほか、1987. 愛知県のミドリシジミ類一分布と生息環境 (1)一. 佳香蝶, 39 (152): 57.
- 竹内 剛ほか、2000. 採集の思い出話. SPINDA (15): 77-85.
- 吉友郁哉、2001. 三重県藤原岳のオナガシジミ. 蝶研フィールド, (176): 25.

### 【関連文献】

- 巢瀬 司ほか、2003. 22. 愛知県. 日本産蝶類の衰亡と保護第5集. 日本産蝶類県別レッドデータ・リスト(2002年): 82-87. 日本鱗翅学会, 東京.

(2009年版を一部修正)